

「課題研究」の学習を生かした進路指導について

—筑波大学附属坂戸高等学校の事例から—

農業科 高柳真人・工業科 大平典男

1. はじめに

本校は、平成6年度より、総合学科を開設した。総合学科は「高等学校教育の一層の個性化・多様化を推進するため、普通科・専門学科に並ぶ新たな学科として設けられたもの」であり、「普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科」である（文部省、1993a）。その教育の特色の一つとして「将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること」（文部省、1993b）が挙げられている。また、その特色を実現するための具体的な方策として「在学中に自己の進路への自覚を深めさせる動機となるような科目を開設するとともに、生徒の科目選択に対する助言や就職希望者・進学希望者の双方を視野に入れた進路指導などのガイダンス機能を充実すること」（文部省、1993c）が挙げられている。

総合学科において、「自己の進路への自覚を深めさせる動機となるような科目」として先ず考えられるのは、総合学科原則履修科目の「産業社会と人間」である。この科目について高柳（1998a）は、「総合学科の特色を生かした学習を進める上でのガイダンス科目としての役割を果たすとともに、生徒が自己理解を深め、自らのライフプランにそった学習計画を考える機会を提供する」と述べている。体験的な諸活動を通じて自己を理解し、更に、将来進んでいく職業や学問の世界を理解しながら、ライフプランを考える機会を用意する「産業社会と人間」は、「自己の進路への自覚を深めさせる動機となるような科目」であるといつてよいであろう。

また、高柳ら（1998）は、総合学科の生徒が「産業社会と人間」以外の授業から進路決定や進路を考える上で役に立つ情報を得ていることを調査の結果、明らかにした。すなわち、その調査の結果では、「産業社会と人間」以外の科目から進路に関する情報を得ている生徒が3割程度存在しているというのである。体験を重視するなど様々な工夫を凝らされた総合学科で開設されている特色ある科目の学習を通して、自己の進路についての自覚を深めさせるような機会が提供されていると考えられる。全ての科目がそうであるとは断定できないが、本校が開設している科目の中には、「産業社会と人間」をは

じめとして「自己の進路への自覚を深めさせる動機となるような科目」が存在していると考えてよいであろう。

また、本校では、平成6年度に入学した総合学科1期生が3年次になった平成8年度から「課題研究」を開設している。総合学科原則履修科目の一つである「課題研究」は、大学における卒業論文、卒業研究に相当する、高等学校総合学科における学習の総まとめの科目であると言われてきた。「課題研究」の学習が生徒にどのような意味を持つものか調べるため、平成10年の10月に、総合学科3期生を対象にした『「課題研究」を学ぶ意味』と題した調査を行った。

「科目『課題研究』を学ぶことは、あなたにとってどのような意味を持っていますか」という問いに、「ア. 自分の興味・関心を確かめられる イ. 自分の適性を確かめられる ウ. 学び方を学ぶことができる エ. これまで学んだ知識・技術の総合化が図れる」の選択肢から選択するか、「オ. その他」に自由記述で回答する形式の質問を行った。その結果を図1に示す。その他として記述されたものは殆どなかったので、ここでは示さないこととする。

課題研究を学ぶ意味

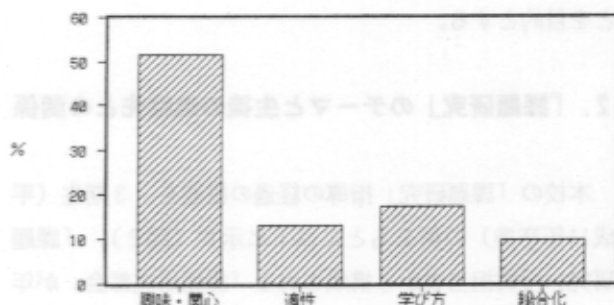


図1 生徒にとって課題研究を学ぶ意味

この結果、「自分の興味・関心を確かめられる」と回答した生徒が54.1%、「自分の適性を確かめられる」と回答した生徒が13.9%いることが明らかになった（高柳、1999a）。「課題研究」は3年次に履修する科目なので、この結果は、それまで総合学科におけるさまざまな学習活動を通じて探索してきた自己の興味・関心や適性に対

する理解が、「課題研究」を学ぶことで、より確かなものになると考えている生徒が多いことを示しているといえよう。すなわち、「課題研究」には、生徒にとって、自己理解を促進する役割を果たしていることを示しているとみることができる。「進路相談の目標の一つは、生徒の『自己理解』を深めることである」(加勇田、1998)といわれたり、「進路選択の第一歩は自分について知ることである」(山本、1998)といわれるように、自己理解の深まりが、生徒にとって、進路検討行動(自分の将来の進路について考えること)に大きな影響を及ぼすと考えられる。「課題研究」が自己理解を促進する役割を果たすのであれば、「課題研究」の学習が、進路検討行動に生かされることが十分に考えられる。

この点について、実際に、高柳(1999a)が平成9年度、10年度に自分の担当した生徒15名について、生徒の選んだ研究テーマと進路先との関係について調べたところ、両者の間には「密接な関係がある傾向が強くみられた」と報告している。担当した15名のうち、73.3%に相当する11名が、「課題研究」と関連した進路先を選択していたのである。

本稿では、こうした経緯を踏まえ、これまでに本校を卒業した総合学科1期生(平成8年度卒業)から3期生(平成10年度卒業)までの「課題研究」のテーマと進路先との関係を明らかにすることを一つの目的とする。また、併せて、本校でも増加しつつある進学希望者に対する進路指導に当たり、「課題研究」の学習成果が生かされている事例について、いくつかの事例を提示し、「課題研究」の学習を進路指導に生かす方策について検討することを目的とする。

2. 「課題研究」のテーマと生徒の進路先との関係

本校の「課題研究」指導の経過の概要を、3期生(平成11年卒業)の例をもとに以下に示す(図2)。「課題研究」授業担当者から構成される「課題研究部会」が年次会(いわゆる学年会)の協力を得て実施するのが基本的な形態となっている。

〔2年次〕

- 11月 「課題研究」ガイダンス
科目概要・課題設定の仕方(方法、課題例示)説明
- 12月 「課題研究」テーマ報告書提出
- 2月 「課題研究」テーマ審査
テーマ再検討の指導(該当者)

生徒担当者の決定と活動場所の確認

〔3年次〕

- 4月 「課題研究」オリエンテーション
ノート配布、年間計画、担当者の発表、
研究の進め方や記録の取り方のレクレーション、
担当者による個別相談(テーマ設定、研究計画)
テーマ、研究計画が決まり次第、研究開始
- 9月 中間報告(ノートによる)
「課題研究」中間発表会(各HR毎)
- 10月 研究再開
- 1月 研究まとめ(要旨集原稿・報告書・作品まとめ)
- 2月 「課題研究」発表会(クラス・学年・校内)
研究報告書・作品提出

図2 「課題研究」指導の経過

「課題研究」の指導の中でも、特に重要であるのが、テーマの設定に関する指導である。生徒にとっては、適切なテーマを設定することができれば、そのこと自体が学習の動機づけとなりやすく、テーマが明らかになっていくことで、研究活動を円滑に進めることができるようになると思われる。ともすれば、教師は教えることに目がいきがちであるけれども、生徒のテーマ設定に関わる教師は、「生徒とよく話し合い、生徒のやりたいことをはっきりさせ、資料の収集の仕方、学び方についてのアドバイスを行うなど相談的にかかわること」(高柳、1998b)が必要であろう。本校においても、生徒のテーマ設定に際しては、先ず、課題の例示などを含めたガイダンスを行い、その後も、テーマを絞り込んでいく過程での相互作用を通じて、各自の問題意識を明らかにできるように関わる機会を持つようにしている。このようにして設定されたテーマは、生徒の問題意識の背後にあると思われる興味・関心、将来の希望等を踏まえたものと言ってよいであろう。

それでは、「課題研究」で自分なりのテーマを選択した生徒は、その後、どのような進路を選択しているのか。このことを調査することで、「課題研究」の学習が進路指導に果たす役割の一端を明らかにすることができるように思われる。

そこで、総合学科1期生から3期生までの「課題研究」のテーマを「課題研究」校内発表会で配布される『課題研究』研究要旨集から調査し、それと進路指導部で作成した「卒業生の進路先」を照合し、「課題研

究」の研究テーマと関連していたり、それを生かしたと思われる進路先を選択した者の事例を調査した。

(1) 総合学科1期生の事例

要旨集に原稿が載っている総合学科1期生155名のうち、研究テーマと進路先に関連性が見いだされる生徒は、55名、割合にして35.5%であった。個々の事例については、表1に示す。全体で73の研究テーマがみられ、個性に応じた主体的な学習が展開されているということができると思われる。また、その研究テーマと関係の深い進路先を選択した生徒が35.5%いたということは、「課題研究」が生徒の進路選択に一定の役割を果たしていることを示していると思われる。1期生対象の調査ではないが、図1に示されたように、この授業を通じて、各自の興味・関心や適性が確認され、それを生かす形で自分の進路を検討したり、将来の進路選択を意識したテーマ設定が行われたのではないかとすることができる。

本校では、総合学科に改編する以前から、農業科や機械科で、資格取得や課題解決型の学習をその内容とする「課題研究」が実施されていたという経緯がある。総合学科に改編するに当たり、総合学科における「課題研究」の性格に関する議論が、当時の「課題研究部会」によって行われ、「生徒自身の発想を大切にし、生徒自らが課題を設定し、計画を立て、研究に取り組む生徒主導のもの」（高柳、1997）とすることが確認されていた。2期生、3期生の研究テーマ設定に際しては、一つの方向性として、生徒各人の進路選択に役立つテーマ設定もあり得るという枠組みを、強制ではなく示したが、1期生の研究テーマ設定に関してはそうした働きかけはなかったといってよい状態であったといえよう。それでも、これだけの生徒が、「課題研究」と関わりのある進路先を選択したということは、この科目が、総合学科の総まとめの科目であると同時に、将来への橋渡しとしての性格をも有していることを示していると思われる。

(2) 総合学科2期生の事例

要旨集に原稿が載っている総合学科2期生146名のうち、研究テーマと進路先に関連性が見いだされる生徒は、73名、割合にして50%であった。個々の事例については、表2に示す。1期生に比べると、個人研究が増え、全体で117の研究テーマがみられた。1期生に対する指導を振り返る中で、グループ研究では、他の生徒に任せきりになりがちな生徒が何人か見られたことから、2期生に対しては、各自のテーマを先ず設定させ、テーマの類似

性などにより、グループ作りを行ったことが、個人研究すなわち研究テーマの増加に結びついたと考えられる。

1期生に対する進路指導の経験から、後述するように、「課題研究」での学習活動が、その生徒の高校生活や興味・適性を物語るものとして、上級学校に対する一種の人物証明書のような役割を果たすことや、上級学校からも生徒を理解するための資料として注目される場合があることがわかった。そこで、2期生に対しては、「課題研究」のガイダンスやオリエンテーションの機会に、「課題研究」のテーマが、生徒その人を雄弁に物語り、進路先の人が生徒を理解する際に手がかりとなり得るものであるという情報を提供した。テーマ設定に対して、生徒の主体性を最大限に尊重するという指導方針は崩さなかったが、研究テーマと関連のある進路先に進む生徒の割合が増加した背景には、「課題研究」の性格が、生徒により理解されるようになってきたということがあるだろう。

(3) 総合学科3期生の事例

要旨集に原稿が載っている総合学科3期生145名のうち、研究テーマと進路先に関連性が見いだされる生徒は、77名、割合にして53.1%であり、2期生よりも、その割合は少し増加している。個々の事例については、表3に示す。3期生に対するテーマ設定に関するガイダンスや指導は、2期生に対するそれとほぼ同様である。全体のテーマ数は、105であり、2期生同様、個人研究の割合が高くなっている。3期生の場合も、半数以上の生徒が研究テーマと関連した進路先を選択している。生徒の主体的なテーマ設定を最大限に尊重するという指導方針のもとでも、これだけの割合の生徒がいるということは、将来の進路を意識しつつ「課題研究」のテーマを決めて学習に取り組む生徒や、「課題研究」の学習を通じて、進路先を決める生徒が相当数いるものと考えてよいと思われる。

3. 「課題研究」を生かした進学指導

総合学科に改編してから、進学を希望する生徒の割合が増加してきた。1期生の進路指導を行う中で、進学の希望を持つ生徒の入学対策を考えるにあたっては、総合学科で学んだことのメリットを生かせないかということが考えられた。当時の年次会構成員（高柳が含まれる）や進路指導部員（大平が含まれる）、総合学科推進委員長（現副校長服部）らで、様々な議論が繰り広げられた。

表1 総合学科1期生における課題研究のテーマと対応する進路先

課題研究のテーマ		進路先
I 類	最近の細菌に関する調査研究	大学農学部
	土壌有効微生物による野菜栽培	大学農学部
	ハーブの研究	大学農学部
	草花の生育と栽培環境	専門学校ハートテクノロジー系
	〃	大学農学部
	トレニアの研究	専門学校農学系
	季節に応じた植物の研究	専門学校ハートテクノロジー系
	植物の有効成分を取り出す	専門学校ハートテクノロジー系
	リサイクルと環境教育	専門学校環境科学系
	〃	専門学校薬学系
	にわとり本を作る	専門学校動物系
	野生生物について(絶滅の危機にある動物)	専門学校海洋リゾート系
	農薬の毒性と残留性	専門学校ハートテクノロジー系
稲作と農薬の流通	専門学校ハートテクノロジー系	
II 類	対戦型ブロックゲーム作り	専門学校情報系
	〃	就職コンピューター系
	ペットボトルロケットの製作・研究	航空自衛隊
	小型蒸気機関車を動かす	大学工学部
	〃	専門学校機械系
	〃	専門学校自動車系
	〃	就職ディーゼルエンジン会社
	校内マップの作成(学校紹介ソフトの作成)	短大経営情報系
	〃	専門学校工学系
	〃	専門学校ネットワークエンジニア系
	自動車の研究(カーナビゲーション・エンジンについて)	専門学校自動車系
	金属加工	大学工学部
	CADによる作図研究	公務員工学系
	プログラミング(OS・Visual Basic)	大学工学部
	〃	大学工学部
〃	就職コンピューター系	
ロボット製作(プログラミング)	専門学校メカトロ系	
鋳造	専門学校自動車系	
自動車修理	専門学校自動車系	

課題研究のテーマ		進路先
Ⅲ 類	子供の体型を考えた子供服の製作	専門学校ドレスデザイン系
	お年寄りの食事	就職飲食店
	薬膳の研究とその調理法	就職飲食店
	栄養の改善	短大食物栄養系
	”	短大生活科学系
類	高校生に適したお弁当作り	短大健康栄養系
	”	短大食物栄養系
	幼児の心身の発達	専門学校幼児教育
Ⅳ 類	情報社会日本	大学経営情報学部
	ガソリンスタンドの経営戦略について	就職ガソリンスタンド
	マナーの研究	就職化粧品美容部員
	”	専門学校医療秘書系
	商業の歴史	就職印刷系
類	”	大学経済学部
	個人輸入について	短大商学系
	学校案内を作成しよう(コンピュータの利用)	専門学校コンピュータ秘書系
	”	専門学校コンピュータ秘書系
	”	大学経営情報学部
普通系	「田中芳樹」を読む	専門学校ジュニアホール系
	青空の研究	専門学校美術系
	時間と空間の性質の研究	専門学校工学系

表2 総合学科2期生における課題研究のテーマと対応する進路先

課題研究のテーマ		進路先
I 類	野菜の接ぎ木方法とその比較	大学農学部
	リサイクリストになる	専門学校環境系
	遺伝子の研究	専門学校バイオテクノロジー系
	EM菌の効果とその利用法	農業大学校
	肥料による野菜の成長	農業大学校
	ネコ科動物について	専門学校バイオテクノロジー系
	鶏と卵の関係	大学農学部
	犬の飼育法について	大学農学部
	絶滅に瀕した動物について	農業大学校
	ライスシャワー絵本物語	専門学校バイオテクノロジー系
	薫製を作る	専門学校調理系
	雑草図鑑の作成	大学農学部
	フラワーアレンジメント	専門学校フラワービジネス系
これからのガーデン・ランドスケープ	専門学校公務員(公園課希望)	
II 類	工業科に関するBasicプログラム	就職コンピューター系
	CADによる自動車、MTBの設計	専門学校自動車系
		専門学校工学系
	MS-DOSのエラーについて	就職工業系
	発電について	大学工学部
	車椅子自動階段昇降機のシミュレーションプログラム	大学生命工学科
	簡易BASIC	専門学校コンピュータ系
		専門学校コンピュータ系
	系統表示プログラム-私の中の名馬-	専門学校コンピュータミュージック系
	グラフのプログラミング	専門学校自動車系
	BASIC言語によるオリジナルプログラムの作成	専門学校コンピュータ系
	BASICプログラミング	就職コンピュータ系
	電磁波が人間に与える影響	大学工学部
電子機器の製作	専門学校オーディオ機器系	
放送の重要性とその機器	専門学校放送芸術系	
III 類	STOP the AIDS	専門学校看護系
	病人食について	専門学校看護系
	〃	専門学校看護系
	高齢化社会について	専門学校看護系
	絵本について	短大幼児教育系
幼児教育の追求	専門学校幼児教育系	

課 題 研 究 の テ ー マ		進 路 先
Ⅲ 類	ダイエットについて	専門学校服飾美術系
	健康的な食事とお菓子	専門学校健康栄養系
	子供服	専門学校アパレル系
	デザイン画について	専門学校服装スタイリスト系
	日本全国伝統料理MAP	専門学校調理系
	オリジナルレシピを作る	専門学校製菓系
	服を作ろう	専門学校服飾美術系
Ⅳ 類	高齢化社会が進むにつれて	専門学校社会福祉系
	デザイン画	専門学校服装系
	福祉「介護技術について」	専門学校福祉サービス系
	スポーツが及ぼす社会・経済への影響	大学経営情報学部
	チョコレート人生-カカ豆が消費者の手に届くまで-	大学経営学部
	新聞でみる日本	大学情報経営学部
	「私のおもちゃ」考(企業商品として)	大学商学部
Ⅴ 類	貿易取引について	留学(ビジネス系) 希望
	ヒット商品について	短大経営学系
	〃	専門学校情報ビジネス系
	シンボルマーク&パンフレットの作成	専門学校インテリアデザイン系
	雑誌製作	短大産業能率系
	Hawaiiにまつわるエトセトラ	専門学校スクウェア・デザイン系
	Ⅵ 系	梵字の研究
Normalization		大学社会福祉学科
葬のマナー		大学仏教学部
「童話」の実態		短大幼児教育系
〃		専門学校児童教育系
「グリム童話」の研究		大学文芸学科
自作音楽の作成		専門学校芸術系
インターネットについてのまとめ		短大情報コミュニケーション系
鉄道における波動輸送の実態		JR東日本
たのしい音楽		短大音楽系
歌を楽しむ		専門学校音楽系
ベートーヴェンへの階段		短大音楽系
企業の環境対策について		就職工業系
成長期の悩み		大学福祉系
〃		専門学校リトミック系
新聞で取り上げた事件	専門学校法学系	
私達のすてきな写真集(デジタルカメラの活用)	就職コンピュータ系	
アプリケーションソフトを利用した「サッカー指導書」の作成	大学政治経済学部(サッカー部)	

表3 総合学科3期生における課題研究のテーマと対応する進路先

	課題研究のテーマ	進路先
I 類	希少植物の増殖法	大学環境科学系
	ハーブの活用性	短大農学系
	トマトの育成とその利用	農業大学校
	野菜栽培とその利用法	園芸希望→食品工場
	猫の生態	大学環境科学系
	犬の歴史と環境	専門学校動物系
	「サービスドッグ」について	競馬学校受験
	珊瑚礁と環境問題	専門学校海洋ビジネス系
	飼料による卵の変化	短大農学系
	バイオの研究～エピネ・フランの培養と研究～	専門学校バイオテクノロジー系
	光合成と地球温暖化について	専門学校環境工学系
	ブーケについて	専門学校フラワービジネス系
	世界の植物生態	専門学校バイオテクノロジー系
	農産物の加工について	専門学校製菓系
	〃	専門学校製菓系
	水質汚染について	専門学校建築系
	II 類	人間型ロボットの二足歩行
自動車について～ゴーカートを作ろう～		専門学校自動車系
〃		専門学校自動車系
〃		就職工業系
発電所の歴史と今ある発電方法を検証する戦について		専門学校電気設備系
CADによる学校の見取り図作成		大学文学部史学科
〃		専門学校CAD系
〃		大学工学部
CDについて		公務員工学系
地球はなぜ磁石を持つか		専門学校臨床工学系
〃		専門学校工学系
〃		大学工学部
自動車の選び方		就職運輸系
モーター		専門学校情報工学系
〃		大学工学部
スピーカーについて		就職工業系
近年のアカデミー賞映画について		専門学校デジタル映像系
自動倉庫ロボットのシミュレーション・プログラムの作成	専門学校機械設計CAD系	
〃	専門学校電気設備系	
車の外部装着品について	航空自衛隊	
〃	専門学校測量土木	

課題研究のテーマ		進路先
Ⅲ 類	子供服の研究	大学家政学部服飾学科
	和・洋・中のお菓子の比較	専門学校調理系
	それぞれの服にあった布の種類(素材)	専門学校洋裁系
	CAKE	専門学校製菓系
	和食献立について	専門学校製菓系
	〃	短大食物栄養系
	お菓子の歴史と甘さをひかえたおやつ	短大食物栄養系
	パンの歴史と日本のパン	専門学校製菓製パン系
	食物繊維について	短大食物栄養系
	幼児・学童の健康と栄養	短大社会福祉系
	画集「奇貨」	専門学校ゲームキャラクターデザイン系
お弁当と低カロリー食品について	短大食物栄養系	
幼児について～幼児の成長と発育～	大学保育学科	
ファッションについて	専門学校マルチメディアコース系	
Ⅳ 類	ディスカウントストアの現状と展望～家電量販店とドラッグストアを中心に～	大学商学部
	HOTEL	大学経営学科
	ヘアスタイリング剤とヘアスタイルの関係	専門学校ホテルスクール
	〃	専門学校美容系
	〃	専門学校服飾デザイン
	個人輸入について	短大ファッションクリエイティブコース
	コンビニについて	専門学校医療事務系
類	〃	大学商学部
	パソコンの仕組みとその販売戦略	短大商学系
	郵便局について	短大経営系
		郵政公務希望(短大商学系)
普 通 系	結晶の研究～色々な試薬の結晶を析出させる	大学理学部化学科
	盲導犬の現状と今後の課題	短大社会福祉系
	素晴らしきかな音楽	専門学校音楽系
	宇宙の歴史について(絵本の作成)	短大生活学
	血液型と性格～A・B・O・ABについて～	専門学校看護系
	ゾウリムシの生態と実験方法について	専門学校動物系
	ダイエットについて	専門学校美容系
	スポーツと健康	大学体育学部
	童話を読む	大学文化学科
	社会と文学の結びつき	短大文学系
	人間論～孟子と荀子～	専門学校ヒューマンアカデミー系
	映画で学ぶ歴史	大学社会学部
	英字新聞からみた平和について	大学国際開発学部
春秋戦国	大学史学科希望	
清瀬の歩み	大学経済学部	

そこで得られたことは、総合学科の生徒は、いわゆる受験勉強の量では普通科の生徒にかなわないかもしれないし、専門教育の系統性や技能の深化においては専門高校生にかなわないかもしれないが、将来の職業を視野に入れた進路についてよく考えており、その実現に向けて主体的に取り組んでいるということでは優れた点を持っているのではないかと考えてあった。そして、それを証明するものとして、生徒自身が科目選択をして作成した時間割（1期生では、160名の生徒が150通りの時間割を作成していた。それぞれが、自己の興味・適性や進路についてよく考えた結果であると思われた）や、自らテーマを決め、担当教師のアドバイスなどはもらいながらも、時間割外の活動も含めて、生徒自身が主体的に取り組む「課題研究」での学習活動や、その成果を提示することも、生徒を理解する一つの方法となるのではないかと考えられた。

そこで、推薦入学を希望する生徒を中心に、提出書類に「課題研究」の中間報告書や「課題研究」で作成した作品（プログラムや写真等）を同封したり、自己PRをする機会には、「課題研究」と関連づけて自己を語ることを指導したりもした。例えば、大学に合格した1期生の例では、ある生徒は、本校進路指導室に保管してある「受験報告書」に、「高校生活については、課題研究のことをほとんどずっと話した。自己アピールも同じようなことを言った」と報告しているし、提出したプログラムやそこから派生した話で、30分くらいかけてじっくり面接が行われた生徒もいた。

こうした事例を踏まえ、先にも述べたように、2期生以降、「課題研究」のガイダンスやオリエンテーション、あるいは、日頃の授業時間にも折にふれ、「課題研究」が自己を語る素材であるといった情報提供を行うようになった。このことは、「課題研究」の意味づけとしての役割を果たすだけでなく、報告書などをまとめる際に、他者が読んで理解できるように書くことといった、研究方法の指導にもつながるものとなった。また、2期生以降の進学希望者に対しても、1期生同様、「課題研究」で自己を語るという方法があることについての指導を行っている。

また、「課題研究」については、大学側からの関心も高まってきているように思われる。例えば、過去3年間の「受験報告書」をみると、面接時に、大学の方から「課題研究」について説明を求められた事例が載っているし、大学入学後に、授業で「課題研究」のことが話題になり、高校在学中に作成した報告書などを大学の先生

がご覧になりたいとのことで、卒業生が学校に尋ねてくることもある。近年増えてきたAC（アドミッションセンター）方式の受験においては、生徒の在学中の活動に目を向け、選抜の重要な資料とする場合が多いが、こうした選抜方式に対しても、「課題研究」の学習状況や成果を生徒に関する資料として活用できるように思われる。

もちろん、最初から「課題研究」を進学対策の一環として行わせるような指導は、本末転倒であると思われるので、指導に当たっては配慮が必要であると思われるが、「課題研究」の「その人を自ずと語る」という性格について教師が知って、指導に当たることは必要なことであると思われる。

4. おわりに

わが国の進路指導においては、生徒が自己理解を深めるとともに、進路先の世界を理解し、両者の適切なマッチングがなされることが重要であるとする考え方が広く認識されていると思われる（例えば、山本、1998）。この考え方は、ホランド（1990）の理論に基づいたものであり、その理論を適用した「職業興味検査（VPI）や職業レディネステストなどが日本でも開発され、進路指導に大きく貢献している」（木村、1997）こともその証の一つということができよう。

とりわけ、自己を理解すること、すなわち、自己の興味・関心や適性を知ることは、進路先を選択する際に、選択した学校や職場での活動を進める上での動機づけとなったり、その円滑な遂行を予測する上で有効なものであると考えられる。「課題研究」の学習は、生徒の自己理解を促進する役割を果たすものといえよう。しかも、自己理解が、自ら選択した課題を遂行するという、体験的な学習を通して行われるところに大きな意義が認められると思われる。それと同時に、どのようなテーマを自ら選択して「課題研究」に取り組んで、どのような成果を挙げられたかということが、その生徒の興味・関心や適性を外部に対して証明する役割を果たしているということもできよう。

総合学科というシステムには、「産業社会と人間」や「課題研究」をはじめとする特色ある科目の学習を行うことを通じて、あるいは、どのような科目選択を行うかを検討する経験を通して、自己の進路について自己理解を深めたり、将来の進路先について情報を得る機会が用意されている。また、HRや三者面談をはじめとして、日常のちょっとした機会にも、教師が生徒と進路につい

て相談する場が用意されており、生徒のあり方生き方を
念頭においた進路指導を進めやすい環境にあると思われ
る。総合学科が開設して、まだ日が浅いともいえるが、
今後も総合学科の特徴やそこで学ぶ生徒の実態を明らか
にしつつ、総合学科の特徴を生かした進路指導の進め方
について検討していきたいと考えている。

引用・参考文献

- ホランド, J.L. 1990 渡辺三枝子、松本純平、館暁夫訳
『職業選択の理論』 雇用問題研究会
- 加勇田修士 1998 「生徒とともに揺れる進路指導」
国分康孝（編集代表）・中野良顕・加勇田修士・吉田
隆江編『育てるカウンセリングが学級を変える [高等
学校編]』 図書文化 P.67
- 木村 周 1997 『キャリア・カウンセリング—理論と
実際、その今日的意義—』 雇用問題研究会 P.39
- 文部省 1993 『「産業社会と人間」指導資料』 ぎょ
うせい a : P.5, b : p.6, c : p.6
- 高柳真人 1997 「『課題研究』の実施報告」 平成9
年度研究成果報告書 筑波大学附属坂戸高等学校
p.40
- 高柳真人 1998 「総合学科の進路指導」 国分康孝
（編集代表）・中野良顕・加勇田修士・吉田隆江編
『育てるカウンセリングが学級を変える [高等学校
編]』 図書文化 a : P.99, b : p.101
- 高柳真人・大平典男 「総合学科の特色ある科目学習を
生かした進路指導—筑波大学附属坂戸高校の事例から
—」 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第36集
- 高柳真人 1999 「『課題研究』の指導の進め方につ
いて—筑波大学附属坂戸高校の事例から」 筑波大学附
属坂戸高等学校第4回総合学科研究大会資料集
a : P.62, b : p.63
- 山本博之 1998 「進路決定を援助する情報提供」 国
分康孝（編集代表）・中野良顕・加勇田修士・吉田隆
江編『育てるカウンセリングが学級を変える [高等
学校編]』 図書文化 P.82